令和５年６月号

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月１で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。

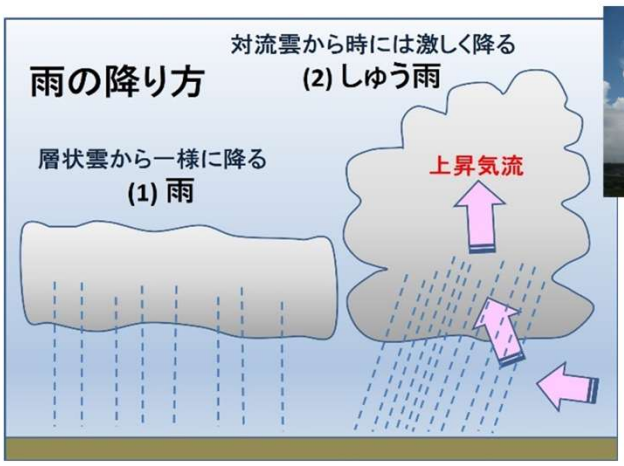
気象防災アドバイザー

Yoshiaki　Yano

雨の降り方　２通り

「雨には２通りの降り方があります」と言ったら、「？？？・・・」でしょうか。中には「そんなこと聞いたことがない！」「そんな訳ないだろう・・・」とおっしゃる方もいるかも知れませんね。

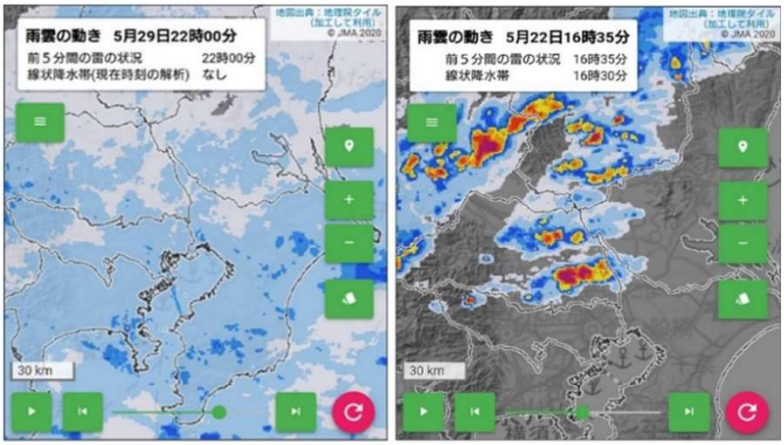
気象庁などが行う雨･雪･みぞれの観測では、(1) 一様な降り方をしているか、(2) 急に降り始まったり急に止んだり、あるいは降り方が大きく変化しているか、を区別し、(2)の場合には“しゅう雨”“しゅう雪”“しゅう性のみぞれ”として記録されます。この区別は世界気象機関(WMO)が定める約束事でもあります。



(1)の“雨”は、層状の雲からほぼ一様に降る雨で、水蒸気がゆっくりと凝結して降るので、比較的一定の強度で持続的に降り、数時間から１日にわたって降り続きます。弱い場合は“シトシト雨”、強い場合は“ザーザー雨”と呼ばれ、温暖前線や梅雨･秋雨前線に伴うことが多いです。

一方、(2)の“しゅう雨”は対流活動が活発化して、上昇気流により上空に運ばれた水蒸気が急速に冷やされ凝結、モクモクした雨雲から降る雨です。この典型的な雲がよく耳にする“積乱雲”です。夏の午後など日射で地表付近の気温が上昇したり、上空に寒気が流入したり、また南寄りの風によって暖かく湿った空気が入ったりすることにより、大気が不安定になって強い上昇気流に伴い発生するものです。

(1)と(2)の違いは、右の気象レーダー画像でも容易にご理解いただけるものと思います。



(1) 雨　　出典：気象庁HP 雨雲の動き　　(2) しゅう雨

積乱雲一つは数 km～十数 km ほどの大きさで、その寿命も 30 分～1 時間ほどです。局地的に雨を降らせるので、風に流されると急に降り始めたり止んだり、降り方が大きく変化します。この雨は、“にわか雨”や“夕立”などと呼ばれ、風に流され過ぎ去れば、“通り雨”です。降り方が激しいときには“局地的豪雨”、“ゲリラ豪雨”とも呼ばれ、雷や突風･竜巻などを伴うこともしばしばです。怖いのは、これらの激しい豪雨をもたらす積乱雲が次々と発生し、それらが風に流されてほぼ直線状に並んだときです。“これでもか”“これでもか”と言うほどの豪雨が降り続き、災害を発生させます。これが近年悪名を馳せている“線状降水帯”です。これからの季節、雨の降り方に注目です。

問い合わせ先
危機管理課災害対策係　電話　２２７４

令和５年６月１０日
危機管理課発行